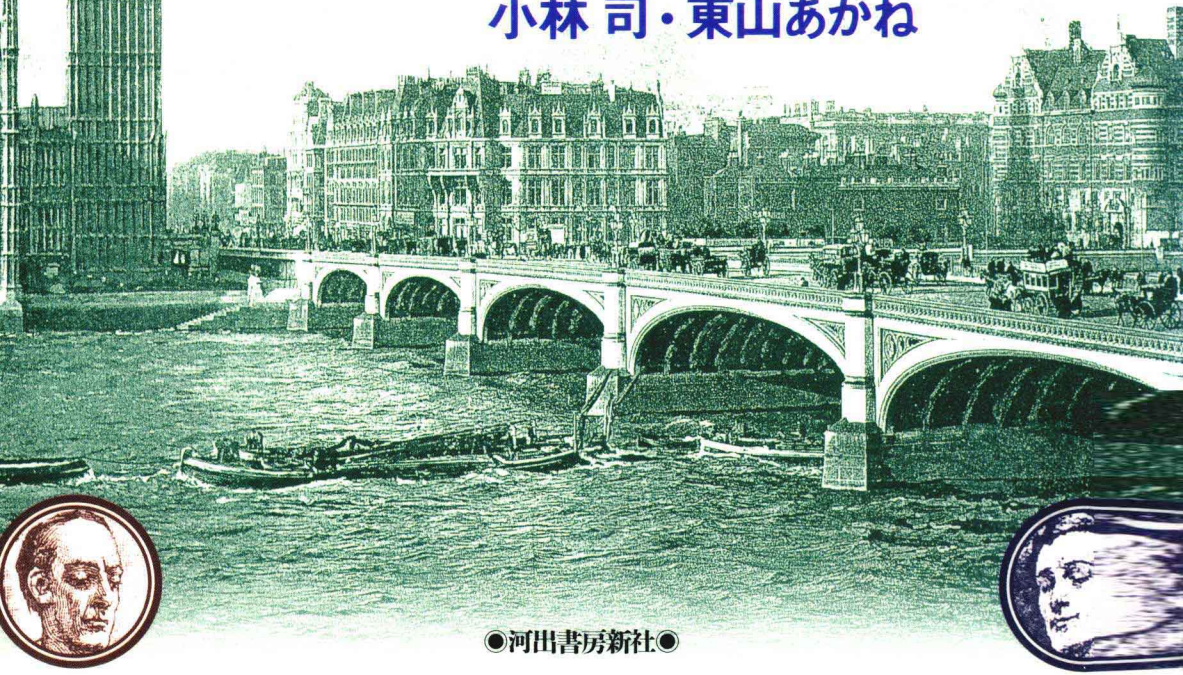




図説

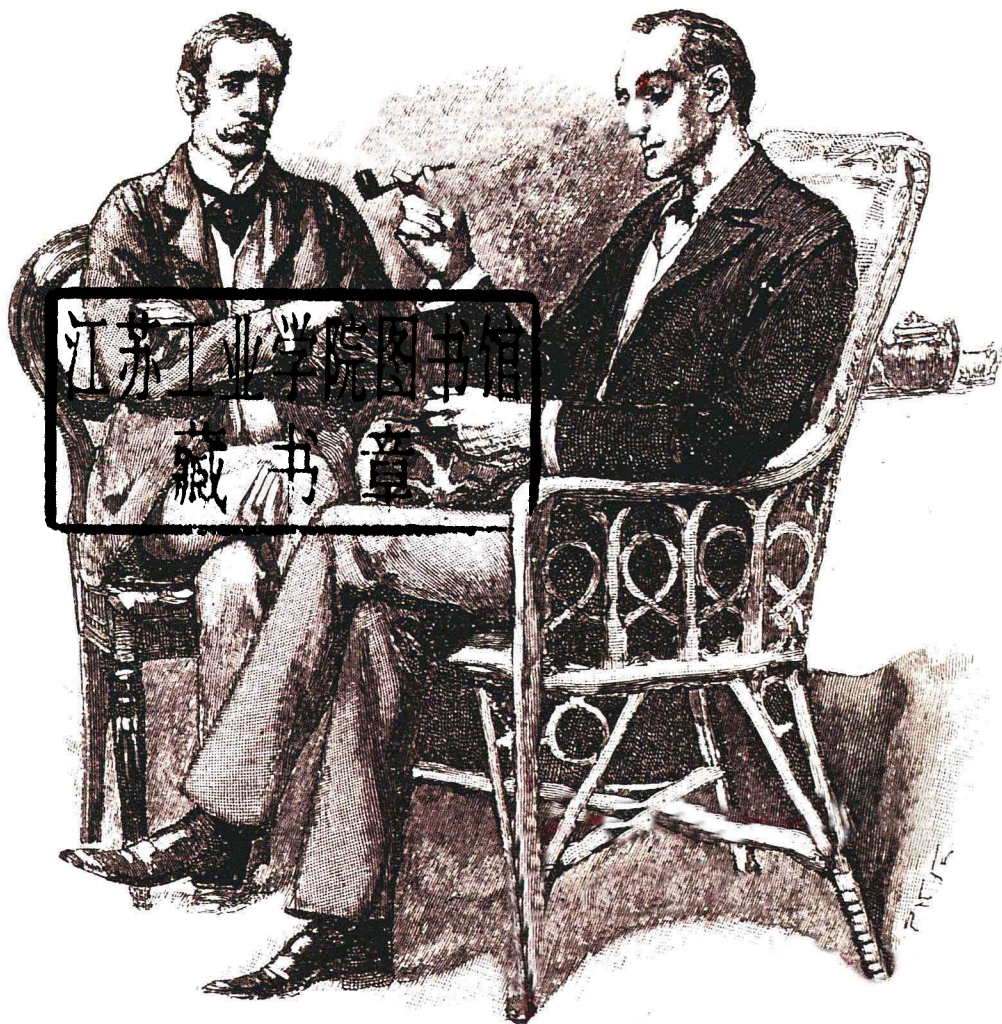
Sherlock Holmes シャーロック・ホームズ

小林 司・東山あかね



Sherlock Holmes シャーロック・ホームズ

小林 司・東山あかね



ホームズ(右)とワトスン。
《ギリシヤ語通訳》より。
絵：シドニー・パジット。



図説●シャーロック・ホームズ●目次

生きてゐるシャーロック・ホームズ 4

シャーロック・ホームズ肖像画ギャラリー 6

ホームズの足音が聞こえるまち 7

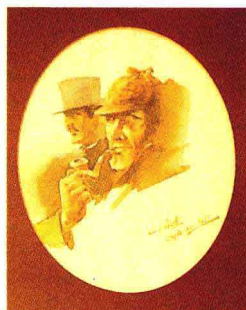
1 ロンドンを歩く 8

2 その足跡は英国全土に及び 32

3 スイス・マイリンゲンには第二の聖地 41



47



わが友シャーロック・ホームズ

1 名探偵の人と生涯 48

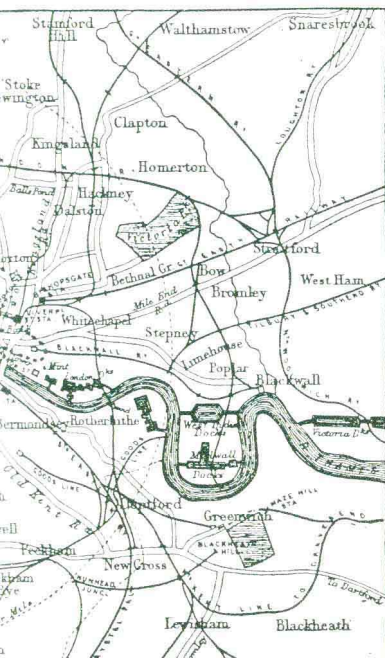
2 ホームズ、心のゆらめき 60

3 ホームズの食卓 78

4 「カーライルとは何者かね」「.....」 87

5 音楽の才能 92

6 ホームズ、美を愛す 96



シャーロック・ホームズとその時代

エスペラントで集めた世界初公開

海外ホームズ本の誌上展覧会.....104

シャーロック・ホームズに関するコレクション初公開.....110

陰で人気を支えるワトスン.....14

ベイカー街と夏目漱石.....15

寛容なハドスン夫人.....23

犯罪うずまきイーストエンド.....29

スコットランド・ヤードの建物.....30

馬車と地下鉄.....31

宿敵モリアーティ教授.....37

新聞を活用したホームズ.....59

ホームズの収入.....69

結婚に縛られる女たち.....73

コカイン.....77

たばこ好きのホームズ.....86

サーヴィスの良い郵便制度.....103

電報から電話へ.....115

無能な警官たち.....116

貨幣制度と物価.....117

コナン・ドイル.....130

シャーロック・ホームズ事件簿.....118

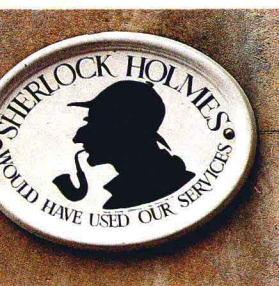
シャーロック・ホームズ関連年表.....124

シャーロック・ホームズ物語の作品訳名対照リスト.....129

本書の著者による参考文献.....133

あとがき.....134

著者紹介.....135



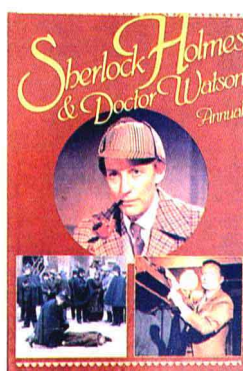
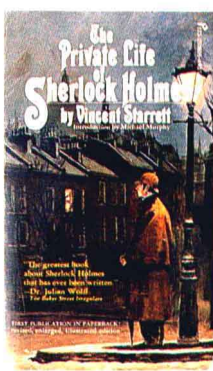
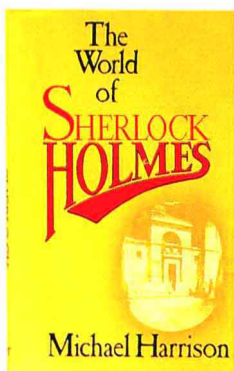
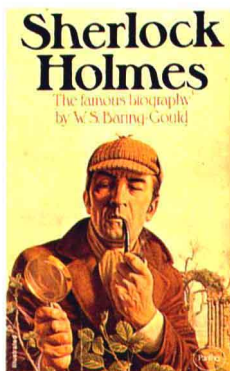
ロンドン・シャーロック・ホームズ会主催のスイス・ツアーでホームズに扮したフィリップ・ポーター氏とワトスンに扮したティム・オーエン氏。スイスのマイリングゲンにあるホームズ像除幕式にて。



見返し地図
表裏
1891年頃のロンドン地図
シャーロック・ホームズ関係
ロンドン地図

1891年のロンドンおよび
郊外の地区別地図(乗合馬車
・鉄道・地下鉄路線入り)

生きているシャーロック・ホームズ

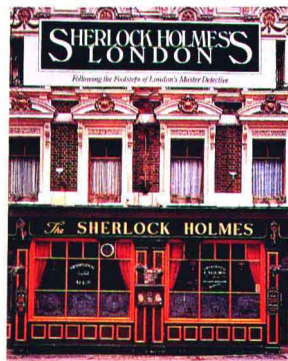
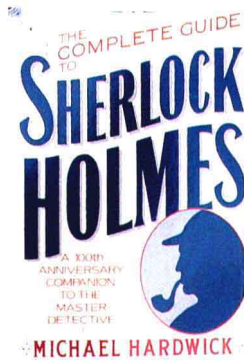
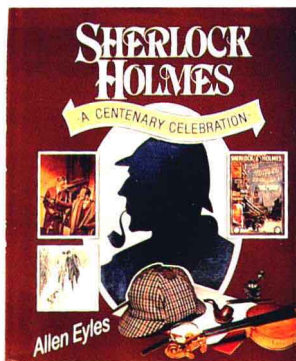
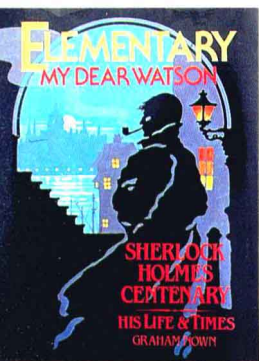


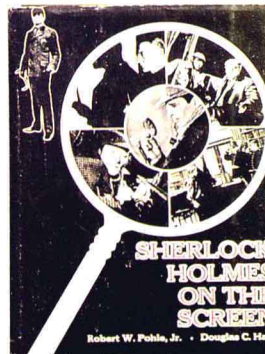
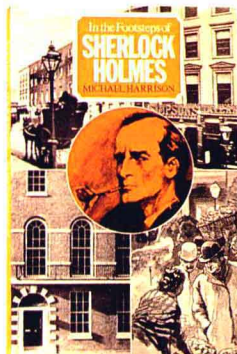
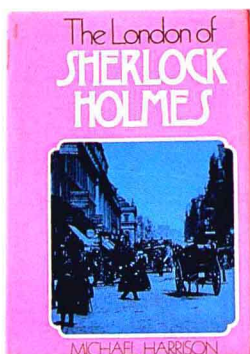
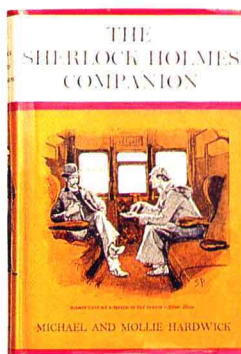
フィクションの主人公ながら、世界中の多くの人々に知られ、愛されているのはハムレットや、ロミオとジュリエット、アンナ・カレーニナ、ハイジ、ポパイ、ポアロなど大勢いる。しかし、伝記が書かれたり、事典が編纂されたりしたのは、C・S・フォレストラーによるホレーシオ・ホームズ・プロワ、J・R・R・トールキンによるホビット族のフロド・バギンズらの数人にすぎない。そのなかでも、いちばん知名度が高く、もっとも多く研究書が出されているのが、わがシャーロック・ホームズであろう。

ドウ・ワールが編集した『世界シャーロック・ホームズ文献目録』（第一巻一九七四、第二巻一九八〇、第三巻一九九四）によると、研究論文は八九五一篇にのぼり、研究書は主なものだけでも九〇冊、事典が八冊、写真集が六冊、雑誌が約五〇種類も出版されており、最高水準のホームズ研究専門誌『ベイカー・ストリート・ジャーナル』は計四六巻、積み上げると高さ二メートルにも達する。

こうして、「シャーロック・ホームズ」ものは、聖書につぐほどの売れ行きだと言われているのだ。このロング・セラーのヒーロー、シャーロック・ホームズのどこがそれほどまでに人々を惹きつけ

ホームズの一生に関する本のコレクション





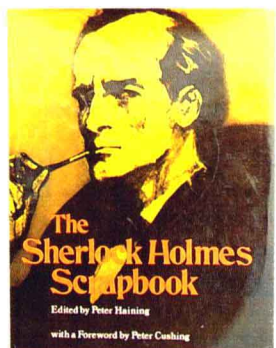
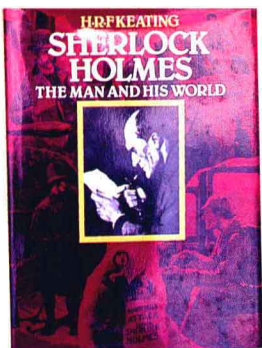
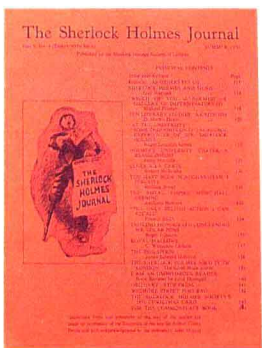
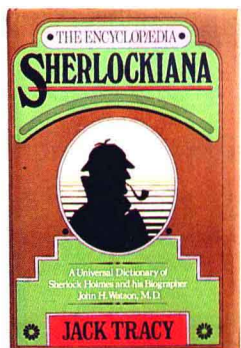
るのであろうか。この異常なまでの熱狂的ファン層をつくり出した秘密が、ホームズの性格のどこに備わっていたのかを本書で探りだしてみよう。

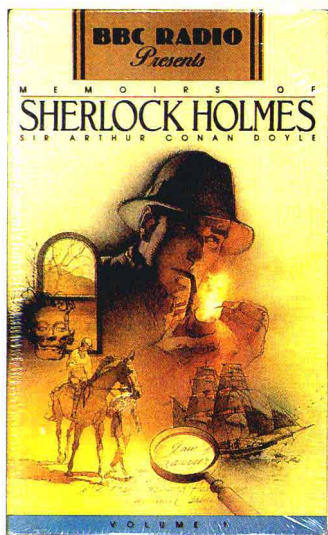
シャーロック・ホームズは一八五四年に生まれて、一八七七年から一九〇三年までロンドンで開業していた私立諮問探偵である。一八八一年に聖パウルス病院で出会ったワトスン医師と共にベイカー街221Bにあるハドスン夫人の家の二階に下宿し、その居間を仕事に使った。ワトスンは彼の助手を勤める傍ら、手始めの「緋色の習作」事件以来ずっと事件を記録する係となった。

ロンドンに網を張って手下に悪事を働かせている数学者、悪の帝王、犯罪界のナポレオンともいうべきモリアーティ教授は、ホームズの永遠のライヴァルであったが、一八九一年にスイスのライヘンバッハ滝で二人が決闘し、格闘しながら共に転落死したと思われた。

しかし、死んだと見せかけたホームズは生き残っており、身を隠して密かにチベット、フランス等をまわって、一八九四年に古本屋に変装して突如ワトスンの前に戻ってくる。そして、再び二人は探偵と冒険に乗り出すのだった。

引退後も請われて一九一四年の「最後の挨拶」事件まで働き、総計六〇事件の記録が公表されている。晩年はイーストボーン近くの丘陵地で蜜蜂を飼いながら、読書と著述を楽しんでいるそうだ。

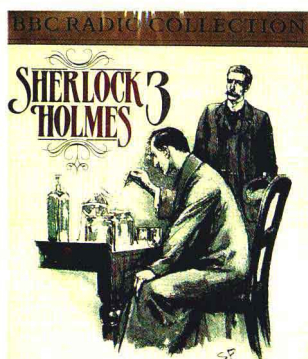




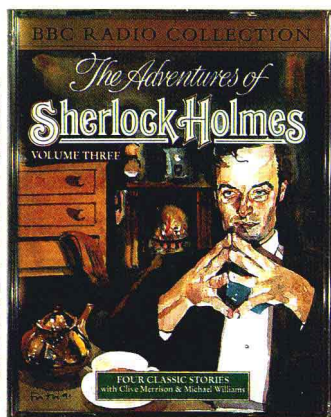
BBCラジオで放送されたもののカセット版（白銀号事件、黄色い顔、株式仲買店員、グロリア・スコット号）



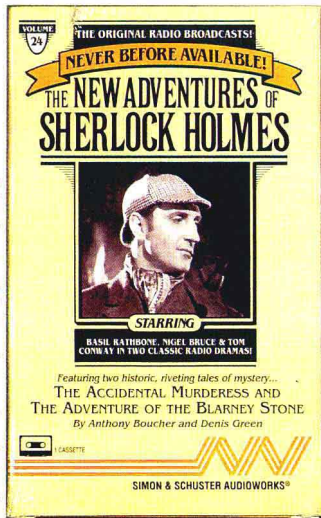
日本の探偵ゲーム。写真はジェレミー・プレット扮するホームズ（切り裂きジャック事件、ドンセル邸殺人事件）



BBCラジオ・コレクションのカセット・テープ（マスグレーヴ家の儀式、黒ピーター、ブルース・パティントン設計書、踊る人形）



BBCラジオ・コレクションのカセット・テープ（技師の親指、花嫁失踪事件、緑柱石の宝冠、ぶな屋敷）



シャーロック・ホームズ生還百周年記念の1993年に英国で発売された記念切手。

バステイシュのカセット・テープ。ペイ・ジル・ラスボウ扮するホームズ（偶然の女性殺人犯人、お世辞者の冒険）

Sherlock Holmes

ホームズの足音が聞こえるまち

スイスのブリエンツ湖畔にて。ホームズ・ツアールのため特別に走らされた19世紀の機関車の前のホームズとワトスン。フィリップ・ポーター氏とティム・オーエン氏が扮している。



1 ロンドンを歩く

ホームズ時代のベイカー街。



現在のベイカー街。左手の白い塔のある建物がアビ・ナショナル。





地下鉄ベイカー街駅プラットホームの壁に最近禁煙マークがついた。ホームズのシルエットをよく見ると点々がホームズのシルエットになっていることがわかる。

地下鉄ベイカー街駅の外観。



The Hound of the Baskervilles

The faithful Watson goes along to Dartmoor to help Holmes with the problem of the ghastly and gigantic hound that has caused the death of more than one Baskerville. But the hound proves to be as real as its footprints and Holmes, revolver in hand, arrives in the nick of time to save the latest quarry.



ベイカー街駅ジューバリー線の大壁画。《バスカヴィル家の犬》の魔犬がおそいかかるシーン。この他に6種類描かれている。

地下鉄ベイカー街駅に降りる

世界でもっとも有名な英国人は、シャーロック・ホームズだ。フィンランド航空の機体にはムーミンが描かれているが、英国航空ならばホームズだろう。

小林の仲間の医者は、五〇歳を超していたが、やはりロンドンで真っ先にベイカー街を訪問し、ホテルに戻ろうとしてタクシーらしいものに乗ったところが、運転手が強盗で、三〇万円ほど脅し取ら



今は営業休止中のバブ・モリアーティ内部。ホームズのゆかりの品などがざってあったのだが。

ベイカー街駅通路にはめ込まれているホームズ・シルエットのタイル。ここにも最近、禁煙マークがついた。



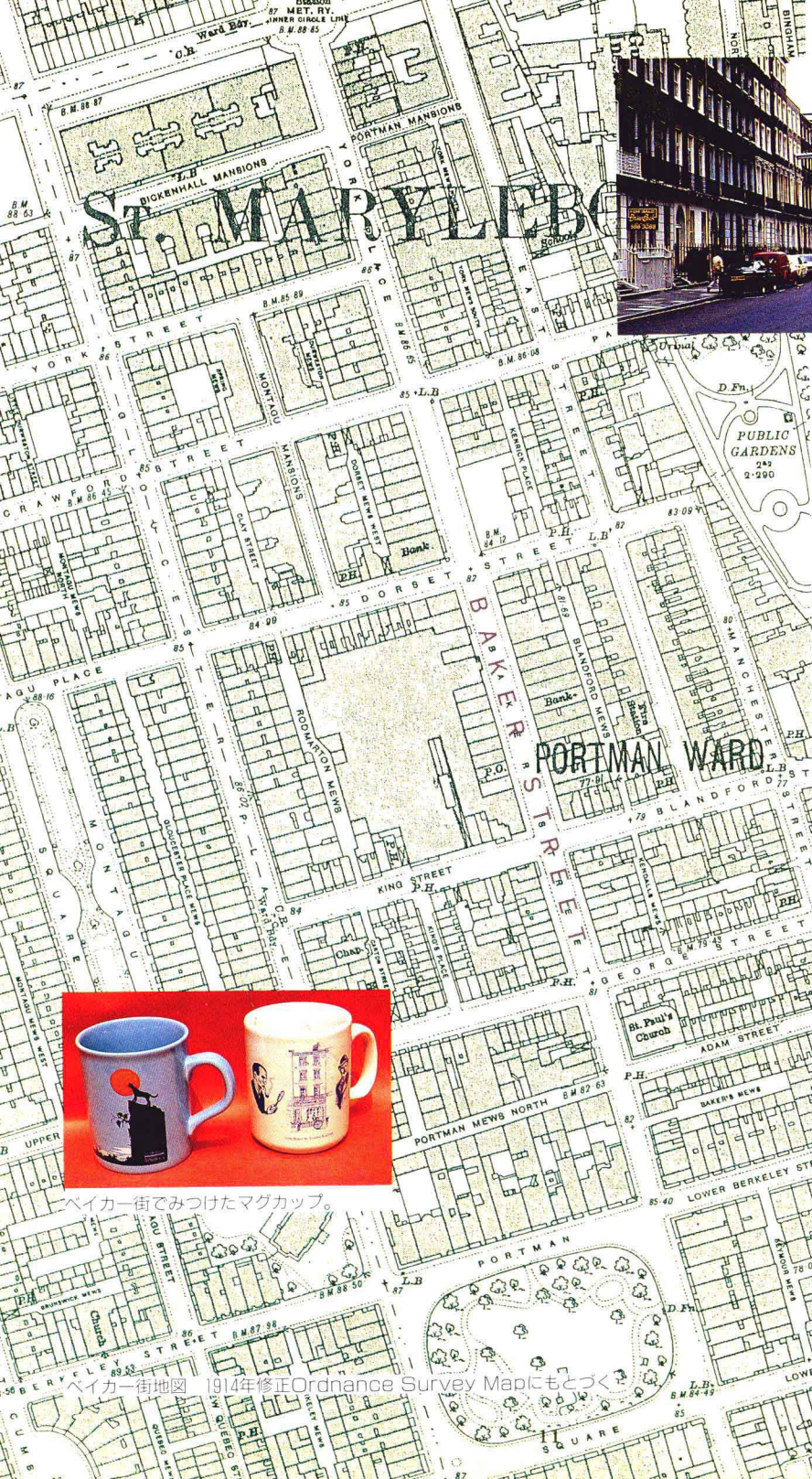
れた。探偵の旧居を見に行つて、被害者になるなんてまことに皮肉であるが、犯罪がふえている由だから用心したいものだ。それはともかく、ロンドンに着いたら、ホームズゆかりの地を見物してみたいのが人情であろう。

それには、まず地下鉄でベイカー街駅へ行くことから始めるのがよい。駅のベイカー・ルー線のプラットホームにはホームズのシルエットを描いた壁画がある。よく見るとそれは、小さな横顔三五〇〇個が集まって大きなシルエットを形作

っているのに気がつくだろう。ジュリー線のプラットホームには、ホームズ物語に関する畳二枚分ほどのイラストが七枚並んでいる。

ホームから駅の出口までの通路の壁にも赤、白、黒のホームズのシルエットを焼き付けたタイルが幾千となくはめ込まれている。

改札口の手前には、バブ・モリアーティがあるが、構内は禁酒になったとかで閉店しており、店の看板だけが寂しく残っている。モリアーティというのはホー



ベイカー街南を望む。

ベイカー街221Bを訪ねる

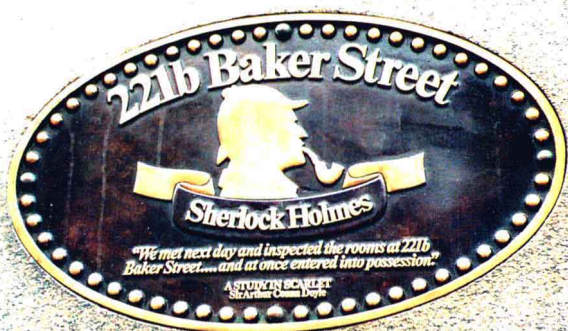
ムズのライヴァルともいふべき悪漢の名前である。

駅を出てマダム・タッソーの蠟人形館へ行く道に並んでいるお上りさん目当てのみやげ物屋にも、ホームズのシルエットをあしらったTシャツやマグカップなどが山積みになっている。

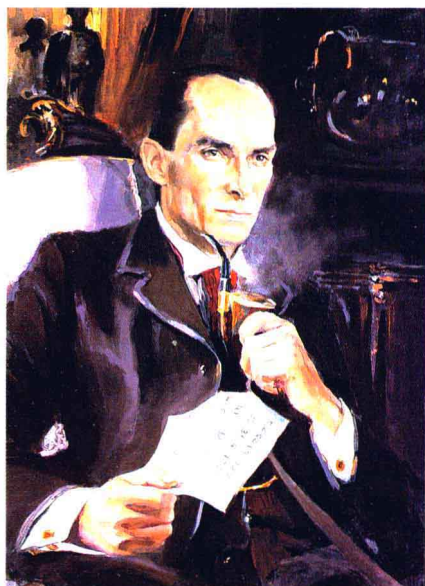


ベイカー街でみつけたマグカップ。

ベイカー街地図 1914年修正Ordnance Survey Mapにもとづく。



アビ・ナショナルのビル玄関に掲げられた記念プレート。



《恐怖の谷》の暗号を持つホームズのポストカード。アビ・ナショナルでホームズ・ファンに配っている（絵はジャック・マッカーシーによる）。

ペイカー街はバスが四台並んで走ることができるとの広い車道（北から南への一方通行）の両側に商店がある繁華街である。ホームズが活躍したヴィクトリア朝時代の建物は少なく、往時の面影を偲びにくい。横丁や一本西側のグロースター・ブレイス（夏目漱石が通ったクレイグ先生の通り）にはまだ当時のビルがそっくり残っている。付近の街路も眺め

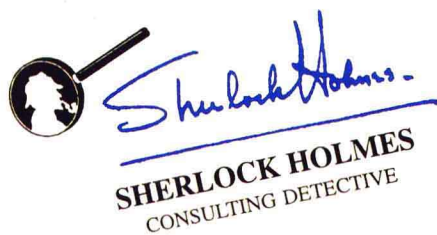
てほしい。

ホームズとワトスンが部屋を借りていたのは、ペイカー街221B（221というのは、番地ではなくて、家屋番号である。その家を壊して、あとで二軒建てた場合にA、Bを付ける）であり、現在ではこの番号の位置にアビ・ナショナルという住宅金融会社の現代的なビルが建っている。そこよりも二〇メートルほど北に、シャーロック・

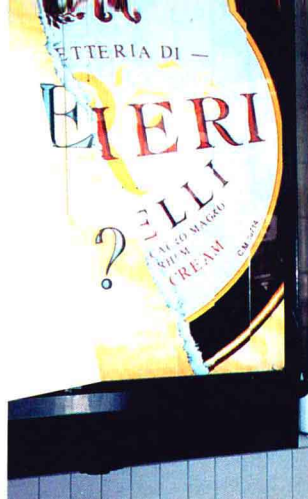
ホームズ博物館があり、こちらこそが本当の221Bだと主張していて、世界中から送られてくるホームズ宛てのファン・レターを当方へ配達しろと郵便局に圧力をかけた。それで、長年にわたってホームズ専属の秘書を置いて返事を書かせていたアビ・ナショナルとトラブルをおこしたが、家屋番号まで移そうというのはどう見ても無理がある。



白い塔のある建物がアビ・ナショナル（住宅金融専門会社）。



221b Baker Street, London NW1



シャーロック・ホームズ氏の名刺。裏はミュージアムの案内図になっている。

ホームズ姿でベイカー街駅でシャーロック・ホームズの名刺を配っているホームズ博物館の職員。



ホームズ博物館が掲げた「221B」のプレート。本当の221Bは、アビ・ナショナルのビルのはずだが……。



アビ・ナショナルのビルから二〇メートルほど歩くと、シャーロック・ホームズ・ミュージアムがある。地下鉄駅にホームズ姿の客引きを立たせ、ホームズの名刺を配らせたり、ミュージアムの門前にせ警官を配置して呼び込みをさせるなど、商売熱心であるが、借金の返却のいざこざで経営者が訴えられているらしい。物語に忠実に、二階へ昇る階段を一七段にしつらえてあるのが、ここの自慢だ。ホームズの居間も『マスグレーヴ家

ホームズ博物館を見学する

アビ・ナショナルの玄関外側の柱には、ホームズのシルエットを浮き彫りにした楕円形の門標がある。これが日本ならば、そんなことをする会社はあるまい。英国人の遊び心をもっと見習いたいものだ。臆せずに中に入り、守衛にホームズ氏の秘書に会いたいと言うと、美人の秘書が応対に出てきて、ホームズとアビ・ナショナルとの関係の歴史を記したパンフレットや彼の肖像画の入った絵はがき、シルエットのついたバッジなどをくれる。ただし予約がないと断られることもある。

陰で人気を支えるワトスン

ワトスンは一八五〇年代に生まれて、オーストラリアで幼年時代を過ごし、後にイングランドの学校に入って、ロンドンの大学で医師となる。聖バーソロミュー病院に勤め、ネットリで軍医としての訓練を受けてから、第二次アフガン戦争に出征、重傷を負って帰還した傷痍軍人である。『四つのサイン』事件のヒロインであるメアリ・モースタン嬢と結婚した。

背はあまり高くなく、顎が角張っていて、首が太い、がっしりした闘士型の体格。ラグビーと競馬が好きで、口髭をたくわえている。ワトスはホームズの引き立て役、いわば縁の下の力持ちとして描かれているが、よく読んでみるとなかなか魅力的な人柄である。多少愚鈍なところはあるが、誠実で忠誠心に富み、女に弱い善人という印象だ。温かい気持ちと常識

の持ち主で、物事の本質をとらえる能力に優れ、論理的、实际的、粘り強さ、謙遜が彼の長所である。

一見、強そうに見えるホームズも、本質的には弱虫の甘えん坊で内心には不安が渦巻いている。ワトスンに文句を言ったり、不満をぶついたりするものの、成熟したバーソナリティの持ち主であるワトスンに寄り掛からずにはいられないのが実情であった。

危険な場所に乗りに込むときには必ずワトスンに同行を頼んでいるし、「都合がよければ来い、悪くても来い」(『這う男』)と電報一本でワトスンを呼び出したりするのはまるでダダっ子である。

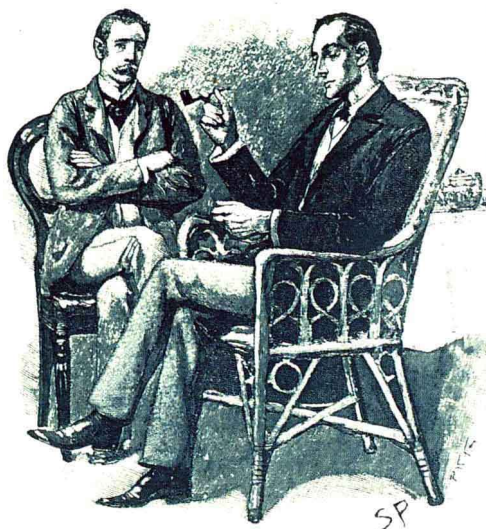
ワトスはホームズの活躍の記録係として筆を振るうが、ホームズはそれを文学的修飾が多すぎるとか、事実を忠実に描写していないなどと言っている。ホ

ームズをもっとも賢明な人物として際立たせるために、自分のことをわざと愚直に描写しているからいがあるから、ワトスンの行動に関してとはどこまで本当のことであるのか疑問が残る。

ホームズはワトスンに自分の考えを話して、喋りながら思索をすすめるのが好きで、ワトスはホームズの「心を研ぐ砥石」のような役割を果たしていたのだ。頭の回転が遅いので何一つわからぬようなふりをして、話を聴いて感心してくれるワトスンを前にすると、

ホームズは直観力を刺激されて火に油を注いだように思考がわき上がってくるのである。

「すごいね、ホームズ」とか「さすがだね!」と合意の手を入れて、ホームズの推理力を次々に引き出すワトスンの能力は大したものだ。カウンセリングには、共感的理解受容、無条件の尊重、配慮、自己開示、ありのままにしていること、などが必要だと言われているが、ワトスンにはそのすべてが備わっているように見える。



ワトスン(左)はホームズの「心を研ぐ砥石」。いつもよい聴き手である。《ギリシャ語通訳》より。絵: シドニー・バジット。

ベイカー街と夏目漱石

英文学者夏目漱石は、文部省第一回給費留学生として、一九〇〇（明治三三年）九月八日、横浜を出帆、一〇月二八日、ロンドンへ到着し、翌々年の一九〇二年二月五日、ロンドンを去って、一九〇三年一月二三日帰国している。

「ロンドンに住み暮らしたる二年はもつとも不愉快の二年なり。余は英国紳士の間にあって狼群に伍する一匹のむく犬のごとく、あわれなる生活を営みたり。ロンドンの人口は五百万と聞く。五百万粒の油のなかに、一滴の水となつてかろうじて露命を繋げるは余が當時の状態なり」ということを断言して憚らず。（漱石『文学論』）。このロンドンでの苦闘こそ、漱石が作家として立つたための重要な契機になったと言われている。漱石は、滞在中、大学へはほとんど通わず、ベイカー街の一本西のグロスター・

プレイスに住むシェイクスピア研究家W・J・クレイグ教授のもとに週に一回通って個人教授を受けたのだった。当時、ベイカー街21Bに居たホームズも、シェイクスピアについては一家言をもち、しかも隣接街路のこと、二人が出会った可能性は十分ある。

漱石はベイカー街のレストランで食事をつたこともある。

また、この漱石が探偵として活躍し、ホームズとロンドンで事件を解決するというパロディもある（島田荘司『漱石と倫敦ミイラ殺人事件』一九八四年）。

島田荘司



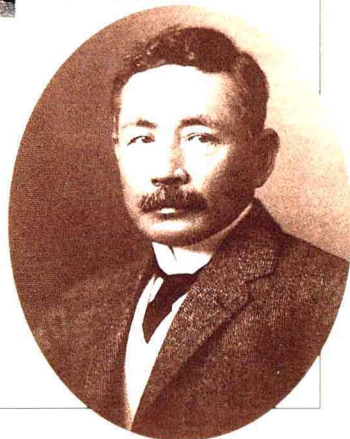
漱石と
倫敦ミイラ殺人事件

ちよつとなさけないホームズと漱石が登場する島田荘司著のパロディ『漱石ミイラ殺人事件』の表紙。

漱石がかよった頃のベイカー街。



ロンドン留学中の夏目漱石がホームズと出会った可能性は十分ある。



現在のベイカー街近くの街路。昔のおもかげをとどめている。



の儀式』に記載されているとおり再現されている。返事を要する手紙をジャック・ナイフで突き刺してとめてあるマントルピースとか、愛用のストラディヴァリウス（もちろん偽物）、ギャソジーン（炭酸ガス製造装置）、パイプ立てなどがしつらえられ、暖炉には本物の薪が燃えている。その前の安楽椅子に座ってディアストーカーをかぶり、パイプを借りて記念写真を撮ることもできる。シャッターを押してくれるのは、やや若すぎる下宿のおかみハドスン夫人というわけだ。

ヴィクトリア女王の肖像画とか、ホームズのイラストなどが沢山壁に掛けられている。私たちが東京の求龍堂から出版



シャーロック・ホームズ博物館前で来館者と談笑するにせ警官。



シャーロック・ホームズ博物館内のホームズの居間。